



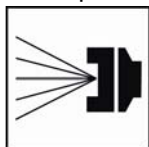
Application Guide

使用ガイド
2008年12月更新
更に詳しく商品をお知りになりたい方はAutoAirColorsのHPをご覧ください

AutoAirColorsはベースコートやグラフィックペイント用に適した耐久性のある水性塗料で車両やバイク、エクステリア等外の塗装に持ちいらす。ウレタンのクリアのトップコートとお使いになれます。全てのウレタンや水性ベースの塗料と交互制がありますが、ラッカーやエナメルと一緒に使用する場合は始めに確認してください。

環境 推薦する周囲の環境コンディションは70°F (約21°C) かそれよりも高めの温度で乾燥しており、可能な限り埃の無い環境が適しています。湿気の多い場所や寒い場所でペイントする場合は乾かす時間を通常よりも多めにとります。乾かす時間を短縮させるには温風を使用することをお勧めします。ヒートも硬化の手助けをします。

Set-Up



セット方法(目安)

スプレーガンのチップサイズ 1、2mm 35~40 PSL (エア圧力) に調整してください。
リデュース (薄め方) 9対1の割合で4011フラッシュリデュースを混ぜます。
スプレーガンは0、8mmから1、0mm チップサイズ ペイントする表面からはガンまでの距離はそれぞれの種類に基づいてください。

エアブラシチップサイズ(目安)

5mm 40~50PSL (エア圧力)
3mmよりも小さいサイズ: 4200シリーズ半透明色か4700シリーズAuto Borne カラーと3対1の割合で4011フラッシュリデュースと薄めます。
リデュース (薄めるとき) は常に4011フラッシュリデュースをご使用ください。

Materials



塗装範囲目安

A4oz ボトルで通常3スクエアフィート (約30、5センチ) の範囲にペイントできます。
更に詳しい説明はプロダクトガイドをご参照ください。
バイク 1 quart 1 pint (946ml=1 quart, 0,568= 1 pint)
中、大サイズのバイク 2、5から3 quart
小サイズの乗り物 2 quart
フルサイズトラック、バン 1 ガロン (3,78= 1 gallon)

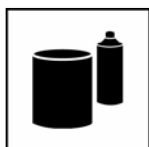
Preparation



準備

#600~#800で下処理をして、油分を取り除きます。
下地がプラスチック系の場合、プライマーを使用してください。
ペイント後はクリアコーティングが必要です。

Primers



プライマー

全てのウレタン、水性エポキシ、乗り物用プライマーと交互制があります。
4000シリーズシーラーを使用した場合ウレタン、エポキシや他の種類のシーラーは必要ありません。

メタル

DTMプライマーかウレタンシーラー、又はエポキシをAutoairシーラーより先にご使用ください。スカフプライマーか600グリッドのめのやすりをAutoairシーラーの前にかけてください。

プラスチック

油が含まれている構成のプラスチックは粘着力のあるプロモーターが必要になります。
グロスをスカフで全て取り除きます。粘着テープでテストしながら進めることにより良い状態で仕上がります。

アルミニウム

スカフした後に4000シリーズシーラーを直接かけます。
ウレタン、エナメル、ラッカー仕上げ
スカフした後に直接4000シリーズシーラーをかけます。
もしベースカラーのみのグラフィックで仕上げる場合は800グリッドのめのウェット&ドライペーパーを使用します。
その際4000シリーズシーラーは使用しません。

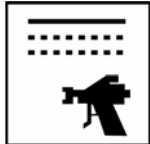
ファイバーグラス

スカフ後に直接4000シリーズシーラーをかけます。

カーボンファイバー

スカフ後に直接4000シリーズシーラーをかけます。

Application and Dry Times



吹き付けとドライ時間

3度塗り 通常3度重ね塗りをします。カラー商品ガイドで重ね塗りの案内をご覧ください。

最初は薄めに吹き付けてください。

ガイドコートと同じように始めは薄く吹き付けします。次からは塗料を増やして仕上げまで行います。乾く前に重ね塗りをするのは避けてください。乾いていないのに上から重ねると乾かすのにより時間もかかりますし、マスキングテープを剥がす時に一緒に剥がれる恐れもあります。

使用する色全て4011フラッシュリデューサーで薄めます。

4011フラッシュリデューサーは乾かす時間を短縮させます。

重ね塗りをする前に必ず乾かしてから吹き付けてください。

濡れたまま上に重ね塗りすると乾かす時間がとても増加してしまいます。

最初の吹き付けで小さい斑点が現れた場合、仕上げまで上から吹き付けしカバーします。

薄く吹き付けするととても良い仕上がりになります。水性塗料を薄く吹き付けた場合、ウレタン塗料で薄く吹き付けた場合よりも薄く塗装されます。

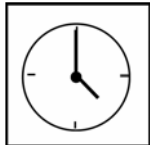
一度で全てをカバーすることはしないでください。

濡れたまま吹き付けを重ねることもしないでください。[フィッシュアイはじき]現象を引き起こす原因になります。

仕上げは更に濃く（塗料を始めより増やします）吹き付けます。

重ね塗りは時間に関係なく乾けばできますので1分からまたはものによっては数日で重ね塗りができます。

シリコンオフよりアルコールで油分を拭くとはじき防止になります。



重ね塗り所要時間

塗装に適したブース（室内）の環境で通常2分から5分程度になります。

解放された環境（外等）では通常5分から1時間程度、温度、湿度やその他の環境条件により乾く時間が影響されます。

4011フラッシュリデューサーを1、2mmチップサイズのエアブラシガンで40PSLで使用しますと又乾く時間を短縮できます。自然乾燥（空気熱）でも乾く時間が短縮されるでしょう。

AutoAirColorsはヒーターでの乾燥は必要ありませんが更に徹底し仕上げを強化したい時はヒーターで硬化します。

ヒーターを使用する時は塗膜の付着を防ぐため、始めに数分自然乾燥させてからヒーターをかけてください。

長い間ヒーターにかけると塗装がパリパリと剥がれたりラテックス（フィルムのような素材）のものですと下層から簡単に剥がれてしまいます。

中間 塗り

オプションで4004半透明色ベースをマスキングテープをはる前に使用します。

- ・1回から2回硬化後に吹き付けます。

- ・湿度の多い環境：色を保持する為にマスキングテープの前にウレタンを中間塗りすると良いです。

4004半透明ベースを4600シリーズキャンディーカラーの上にマスキングテープする前に中間塗りを保持する為に使用します。

SpotRepair 箇所直し



箇所直しを始める前に硬化されているか確認してください。

4200シリーズ半透明色、4500シリーズスパークルシーンと4600シリーズキャンディーカラーは箇所直しにヤスリをかけないでください。

直したい箇所にヤスリをかけます。ウェットサンドでは無くドライペーパーを使用します。

全てのペイントを取り除きます。端のエッジ等もよく取り除いてください。

十分にカバーできる量をうえから吹き付けます。

サンディングした箇所を全てカバーできたら周囲となじませるように吹き付けます。

Curing



硬化

AutoAirColorsはブース（室内）や風の動きのあるところでも

硬化できます。赤外線ランプ、ヒートガン、それか単純に自然乾燥で硬化します。4011フラッシュリデューサーは色の発色や乾きを徹底させます。

ブース内での硬化：

乗り物等のペイントの際はブース内での環境がペイントに最適です。48-65℃の温度で15分から20分くらい完全に乾くまであぶります。更に乾かす時間を短縮するには、室内の気流している温度を上げます。148℃もあれば色も完全に乾くと思われま。

ブース外での硬化：最低でも21℃の温度で湿度の少ない環境をお勧めします。

寒い場所や湿度の多い場所でのペイントは重ね塗りまでの時間をおくことをお勧めします。完全に乾いてから重ね塗りしてください。ヒートを使い硬化の時間を短縮させます。

AutoAirColorsはヒートや温風で硬化します。ヒートガンか赤外線ランプを使いますがもしヒートで硬化しない場合は十分時間を置き乾かしてからマスキングやトップコート作業に進んでください。乾かす時間は環境により異なります。

Curing

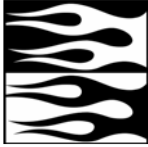
硬化



赤外線ランプ 安全な距離（近づかせすぎない）に置きます（通常約30センチ離します）触った時につかない程度まで乾かします。
小さい範囲にはヒートガンがとても効果的です。1、2分位温風にあてます。
付着や革はり現象、水ぶくれを防ぐ為に過度にしようしたりフィルムの上を硬化するのは避けてください。
硬化するにあたりヒートは特に不可欠ではありません。
AutoAirColorsは十分に空気で（自然乾燥）すればフィルムは硬化できますし、ヒートを使わなくても硬化できます。

Taping

マスキング



使用方法通りにマスキングすれば剥がれることはありません。
だいたいのテープ種類が使用可能です。
トランスファーかマスキングテープを使用する場合は中から高（4870AutoAirマスキングテープ）のマスキングテープをご使用ください。ファインラインテープを使用する場合は紙のテープ（4872Vテープ1／16）がプラスチックテープよりも良いです。
マスキング 時間
色により異なりますし、スプレーコンディションや塗料の使用量によっても異なります。うす塗りの場合は指にぺたぺた付かない程度まで十分乾かしてからマスキングします。厚塗りの場合は十分によく乾かしてからマスキングします。20分から2時間とコンディションにより異なります。
過度なヒートテイングを避けてください
特にヒートガンの過度な使用はお控えください。ラテックスフィルム等の素材ですとマスキングと共に剥がれやすくなってしまいます。
空気での硬化（自然乾燥や温風）はフィルムを強化します。もしヒートを使用する場合はまず自然乾燥や温風で付かない程度まで乾かし、塗装が部屋と同じくらいの温度まで下がってからマスキングしてください。

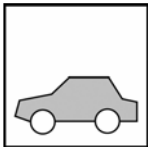
Cleaning

クリーニング（洗浄）

溶剤ベースのクリアが少量付着していたとしても特に洗浄は必要ありません。
もし汚れが目に見えるようでしたらディクリーザー（皮脂除去材）や工業アルコールで洗います。
絶対に水での洗浄は控えてください。

Clearing

クリアコート



まず少量から始めます。クリアのガイドラインに従いながら吹き付けていきます。うまく化学反応をさせる為 中、高温に設定し低い温度（硬化を早める）は避けます。特にAutoAirでは付着してしまう適した条件になってしまうので硬化を早める行為はお控えください。
基本的に硬化はゆっくりと時間をかけたほうが良いです。

すべてのウレタンクリアーと交互制があります。試しテストは必要ですが他の種類のクリアーにも交互制があります。

強力硬化硬膜材は使用しないでください。活性剤と硬膜材はゆっくりと時間をかけて何往復か均等に吹き付けます。

4400や4500シリーズの大きいフレークの上にクリアを噴く時はハイソリッドクリアーをお勧めします。
パールやフレークを綺麗に埋めるのに適しています。

Equipment CleanUp

洗浄用具

AutoAirクリーナーかリストア（スプレー塗料を取り除いたり補修に適したラベルの付いているもの）をAutoAirをご使用になる時は選んでください。

Safety

安全性

AutoAirColorsは0、1VOCが含まれています。
※揮発性有機化合物（VOC）とは、常温で揮発しやすい化合物のこと。
VOCとはVolatile Organic Compoundsの略。トリクロロエチレンやテトラクロロエチレン、ホルムアルデヒド、トルエン、ベンゼン、キシレンなどさまざまな物質がある。

シリーズ詳細

4000シリーズ リデューサー、シーラー&クリーナー
シーラーダーク&ホワイト
準備された表面の上に始めのコートとして使用します。ウレタンかエポキシシーラーが適しています。スムーズでないむき出しのものや未処理の金属は除きます。ウレタン、エナメル、ラッカーは直接吹き付けできます。仕上げは800グリッドウェット&ドライ又は更に粗い目のやすりで磨いた後にのせます。色をのせる前のベースコートは特に必要ありません。
シーラーは4500シリーズホットロッドスパークルを黒のウレタン仕上げの上にのせる時と同じように4200シリーズのセミ不透明色の4220濃黒をの上には省略しても構いません。
4001シーラーをトップコートと一緒に使用することでとても綺麗な仕上がりになります。特に赤、黄、オレンジや4500シリーズの半透明色のスパークルシーンマンゴーやテキーライエローに有効です。
ベースコートシーラーホワイトは4205セミ不透明色のフレームオレンジがパステルカラーを作れオレンジベースのスパークルシーンマンゴー色をカバーするのにマンゴー色の材料を少なく使用できるので便利です。

透明ベース
4600シリーズキャンディーカラーと混ぜてベースや中間塗りにご使用ください。

4011フラッシュリデューサー
リデューサーはペイントをする時に常に必要です。吹き付けに関しても一層使いやすくなりますし、チップが乾燥するのを減らしたりスムーズな塗装の手助けをします。スプレーガンではおおよそ10%ほど、エアブラシでは更に増やします。4600シリーズキャンディー顔料3：1 4011フラッシュリデューサーの割合で使用します。
4010フラッシュリデューサーは特に少量の溶剤で流れを少なくし表面を平に仕上げます。

洗浄液
エアブラシやスプレーガンの洗浄にご使用ください

リストアー
硬化または硬化していない水性塗料やAutoAir塗料を取り除きます。
硬化したペイントや乾いたスプレーガンやエアブラシの清掃も塗料を簡単にに取り除けます。

4100シリーズ アルミニウムベース
4600シリーズキャンディー色顔料をベースにとってもよく反射します。
アルミニウムベースをベースカラーに使用する時は、4200シーラーを使用してください。

4200シリーズ グラフィックカラー
不透明（Opaque） 通常のベースコート
蛍光（Fluorescent） 日光にさらす場合はリミテッドライトファーストをご使用ください
透明（Transparent） より繊細なエアブラシに使用します。他のシリーズのカラーと混ぜトナーとしてご使用ください

4300シリーズ スペシャルFXカラー
パール、メタリック、虹色色 不透明色でカバー力があります。ベースとしては4600シリーズキャンディーカラーと使用します

4400シリーズカラーシフト FX
宝石カラーシフト ホログラフィー、パールフレークの透明ベース。黒や他のベースカラーの上に色の効果をだす為に使用します
宝石カラーを広範囲でクリアをのせる前に中間塗りとして4004透明ベースを吹き付けるとよいです。
ハイライト
透明ベースと微妙にパールで色が変化します。黒や他の色の上にご使用ください。ゴーストライクな効果が期待できます

4500シリーズ スパークルカラー
ホットロッドスパークル 大きめのパールフレークの透明色ベースになります。黒や他の色の上にのせて使用することにより色の発色効果がでます。キャンディーパールベースカラーと4200シリーズ透明色を直接混ぜます。パールシーンキャンディーカラー（4004透明色がキャンディーカラーと混ぜるのに必要になりますので量を置き換えて調整します）4600シリーズキャンディーカラーと混ぜます。
フィルム塗装の場合はクリアの前に中間塗りと同じようにベースに大きめサイズのフレークをのせるとより一層均一に塗装できます。

コスミックスパークル
透明色の小さめのパールフレーク。ホットロッドスパークルと似ています。

スパークルシーン
キャンディーの仕上げに使用する為のとてもユニークな塗料で様々な色の効果を楽しめます。白ベースや4300シリーズメタリックカラーのベースの上にのせます。更なる効果を出したい時は、ベースに400シリーズ宝石色を使い4500シリーズホットロッドスパークルとコスミックスパークルカラーをのせます。

4600シリーズキャンディー 顔料
顔料ベースのキャンディーカラー。アルミニウムかメタリックベースの上に中間塗りとして使用する時は3：1の割合で4011フラッシュリデューサーと薄めてください。
硬化する時はマットな仕上がりになりますが、クリアをふいた後キャンディーカラーの輝きが目に見えるように仕上がります。

4700シリーズ
他のシリーズよりも溶剤を含んだパフォーマンス用などのウレタン塗装に適しています。特に繊細なラインアート、細かいエアブラシアートにお勧めです。ベースカラーに使用することにより乾くまでの時間が短縮されとてもスムーズに均一に仕上がります。4011フラッシュリデューサーとの薄める比率はエアブラシのチップサイズにより異なります。

商品をご使用になる前にお読みください。
これらのカタログに掲載している事柄はAutoAirColorsに基づき正確で信用のおける記載ですが商品に対する苦情、責任問題等は一切負いませんのでご了承ください。
商品をご使用になる際にお客様ご自身で適合性があるか確認していただきたく存じます。これらのカタログに記載されています内容は技術的な案内や文章が更新の際に変更する場合がございます。
Autoaircolorsは商品向上の為随時商品が変更になることもございます。詳しくはHPに記載されております案内をご覧ください。
www.autoaircolors.com
懸案中の特許 AutoaircolorsとAutoaircolorsのロゴはCreatex Distribution LLCのトレードマークとして特許を申請しております。